

# 黒水遺跡拜香地区

中津市文化財調査報告 第40集

2006

中津市教育委員会

## 例 言

- 一、本書は中津市教育委員が2005年度に実施した黒水遺跡の発掘調査報告書である。
- 一、調査は携帯電話の鉄塔建設に伴うもので、調査、報告に要した費用は全て株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州（以下NTTドコモ）の協力を得た。
- 一、調査団の構成は下記の通りである。

一、調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 影木 莊一郎（中津市教育委員会教育長）

調査事務	園分 重喜	（中津市教育委員会文化振興課	館長）
	保科 眞	（ 同	文化財係長）
	富田 修司	（ 同	文化財係）
	高崎 章子	（ 同	）
	平田 由美	（ 同	）
	浦井 直幸	（ 同	嘱託）
調査担当	花崎 徹	（ 同	文化財係）

報告書作成にあたり栗田勝弘氏、後藤一重氏、吉田寛氏（大分県教育庁文化課）  
塩地潤一氏（大分市教育委員会）にご助言、ご指導を頂きました。

- 一、遺物の実測は花崎がおこない、製図は金丸孝子（中津市歴史民俗資料館）がおこなった。
- 一、現場の遺構実測は花崎がおこなった。製図は金丸がおこなった。
- 一、遺構、遺物の写真撮影は花崎がおこない、金丸の協力を得た。
- 一、本書の執筆、編集は花崎がおこなった。

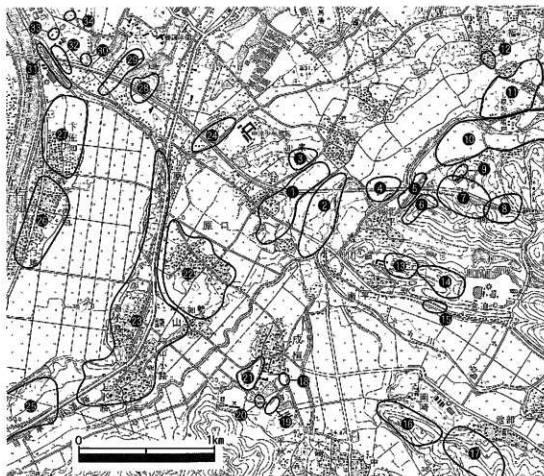
一、発掘作業、及び遺物整理は以下の皆さんの協力による。（敬称略）

若木和美、菅允子、片桐千鶴、辛島雅美、新出秀勝、懐仙花、宮久君子、松本貞子、長岡早苗、掛布玲子、黒川洋美、福永美佐子、今永キク子、黒川みゆき、徳永賀子、植山京子、植山ヨシカ、松本勲、西本幸子、岡田由美恵

# 目 次

第1章 地理と歴史的環境 .....	1
第2章 試掘調査 .....	2
第3章 本調査 .....	3
1、調査の概要 .....	3
2、調査日誌 .....	3
3、遺 構 .....	4
(1) 溝状遺構 .....	4
(2) 土 坑 .....	7
(3) 掘立柱建物 .....	8
4、遺 物 .....	9
第4章 小 結 .....	10
図版1 .....	13
図版2 .....	14
図版3 .....	15
抄 録 .....	16

## 第1章 地理と歴史的環境



第1図 中津市遺跡図 (S=1/25,000)

- |           |             |             |             |             |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 黒水遺跡   | 8. 寺迫遺跡     | 15. 野辺田横穴墓群 | 22. 原口遺跡    | 29. 六畝町遺跡   |
| 2. 大坪遺跡   | 9. 宇土横穴墓群   | 16. 岡崎遺跡    | 23. 鎌山遺跡    | 30. 柳ヶ追池東遺跡 |
| 3. 大幡城跡   | 10. 犬丸川流域遺跡 | 17. 岡崎城跡    | 24. 清水郎西遺跡  | 31. 上ノ原横穴墓群 |
| 4. 樋多田遺跡  | 11. 福島遺跡    | 18. 庵ノ尾横穴墓群 | 25. 臼木遺跡    | 32. 勘助野地遺跡  |
| 5. 権現島遺跡  | 12. 福島城跡    | 19. 端雲寺遺跡   | 26. 佐知遺跡    | 33. 弊旗郡古墳群  |
| 6. 北平横穴墓群 | 13. 美濃尾遺跡   | 20. 鶴山横穴墓群  | 27. 佐知久保畑遺跡 | 34. 相原古墳群   |
| 7. 森山遺跡   | 14. 倉迫平遺跡   | 21. 成恒遺跡    | 28. 大池南遺跡   |             |

中津市は大分県の北部に位置し、平成17年3月の下毛郡4町村との合併により人口約86,400人、市域面積190.80km<sup>2</sup>である。中津市の北は周防灘に面し、南は日田市、東は宇佐市、西は山国川を挟んで福岡県である。黒水遺跡付近は八面山から延びる洪積台地上に位置する。ここで周辺の遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡は木木遺跡、樋多田遺跡が挙げられる。資料はいずれも後期旧石器時代に属する。縄文時代の遺跡は黒水遺跡、ボウガキ遺跡、入垣貝塚、佐知遺跡などが挙げられる。ボウガキ遺跡では縄文後期の竪穴住居などが検出され、大分県指定史跡である。弥生時代の遺跡は福島遺跡、佐知久保遺跡、諫山遺跡、森山遺跡などが挙げられる。福島遺跡では弥生時代中期の溝が直線で160m確認され、大規模な集落の存在が期待される。古墳時代の遺跡は弊旗郡古墳群、上ノ原横穴墓群、柳ヶ追池東遺跡などが挙げられる。山国川沿いに古墳が築かれ、微高地に集落が展開する。中世の遺跡は大幡城跡、黒水遺跡、岡崎城跡、などが挙げられる。黒水遺跡では、13世紀後半から14世紀後半の周辺有力者の居住区域が確認されている。大幡城跡は天正16年(1588年)宇都宮勢を平定した黒田如水の子・長政により落城される。

## 第2章 試掘調査

平成17年8月2日にNTTドコモより、中津市三光臼木996番1と中津市大字加来1792番地の1で、無線基地局建設にともなう埋蔵文化財の照会が中津市教育委員会になされた。これを受け試掘調査を9月9日に実施した。

### 中津市三光臼木996番1（臼木遺跡）

現場は標高約50m、臼木遺跡として周知される。重機によりトレンチ1本を掘削した。表土より約150cm掘り下げ黄褐色の地山に達した。調査区周辺は近代の攪乱を受け、遺構、遺物とも検出されなかった。本調査の必要はないとし、確認調査を終了した。

### 中津市大字加来（黒水遺跡）

現場は標高約37m、黒水遺跡の隣接地になる。重機によりトレンチ1本を掘削した。表土より約50cm掘り下げ黄褐色の地山に達した。幅約260cmの溝状遺構を1条、ピット3基を検出した。遺跡の確認をNTTドコモに連絡し、協議をおこなうこととした。協議の結果、NTTドコモの協力を得て、中津市教育委員会が発掘調査を実施することが決定した。なお遺跡が確認されたことから、黒水遺跡の範囲変更を行い、調査区は黒水遺跡拜香地区と命名した。

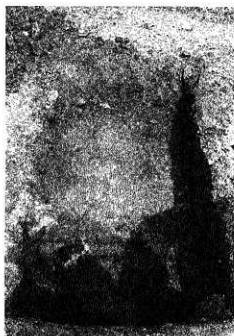
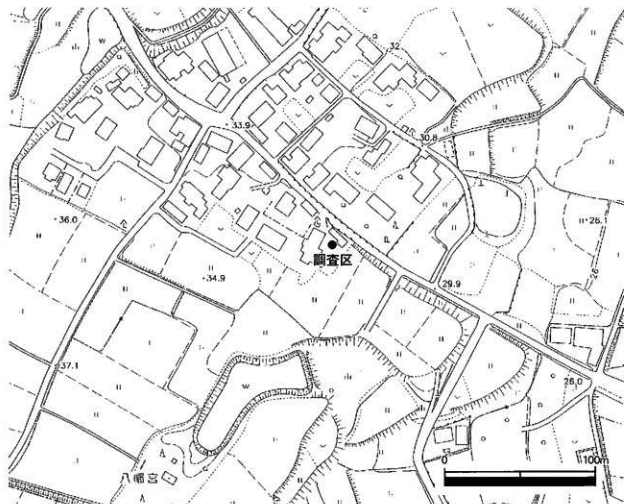


写真1 臼木遺跡試掘状況



写真2 黒水遺跡試掘状況

### 第3章 木 調 査



第2図 黒水遺跡拜香地区周辺図 (S-1/2,500)

#### 1、調査の概要

本調査は重機で掘削し、人力で遺構検出をおこなった。検出した遺構はすべて完掘し、遺構実測をおこなった。遺物を取り上げ、洗浄、接合をおこない、遺物の実測、報告書の作成をおこなった。

#### 2、発掘現場日誌

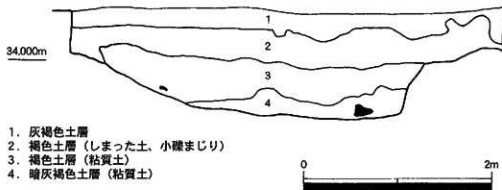
平成17年10月17日	重機による表土剥ぎ、遺構検出
平成17年10月18日	溝状遺構掘り下げ
平成17年10月19日	溝状遺構掘り下げ
平成17年10月20日	溝状遺構掘り下げ、遺物検出状況写真撮影
平成17年10月21日	溝状遺構出土遺物取り上げ、ビット掘り下げ
平成17年10月24日	遺構平面図実測、土層図実測、近代の土坑掘り下げ
平成17年10月25日	遺構平面図実測、近代の土坑掘り下げ
平成17年10月26日	近代の土坑掘り下げ、ビット掘り下げ、遺物洗浄
平成17年10月27日	土坑掘り下げ、遺構平面図実測、ビット掘り下げ
平成17年11月 1日	調査区清掃、全体写真撮影、現場撤去
平成17年11月 2日	現場埋め戻し

### 3、遺構

調査区から検出された遺構は、溝状遺構1条、土坑1基、掘立柱建物1棟、ピット26基である。また近代の土坑3基を検出した。近代の土坑はブロック片を含むゴミ捨て穴と、電柱の掘り方で、平面図は範囲のみを記録した。

#### (1) 溝状遺構

調査区の中央やや東よりで溝状の遺構を検出した。溝状遺構の幅は約260cm、深さ約60cmである。溝状遺構の断面は逆台形を呈す。調査区北側は試掘調査時に掘り下げすぎて、溝状遺構の幅、深さは不明である。しかし、調査区北側壁の土層から溝状遺構は直線に走ることが推測される。また溝の底で暗灰褐色の粘質泥土が一部で確認された。溝状遺構は一定の期間、空の状態であったことが推測される。



第3図 溝状遺構土層図 (S=1/40)

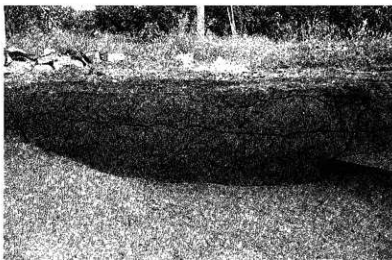
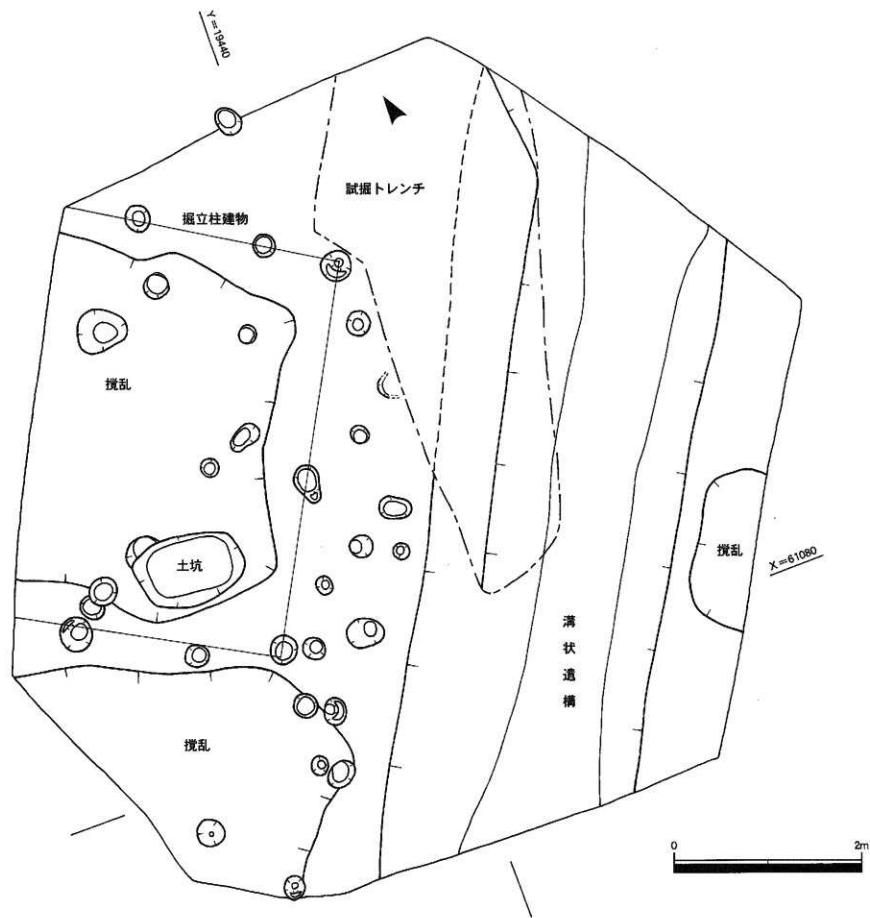
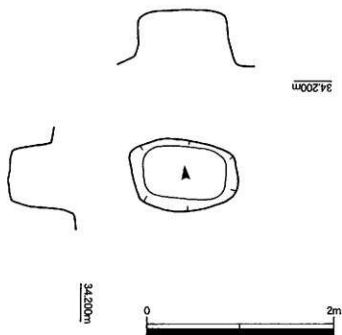


写真3 溝状遺構土層



第4図 黒水道跡拜香地区遺構図 (S-1/40)





第5図 土坑図 (S=1/40)

(2) 上 坑

調査区西側で近代の上坑を掘り下げ、その直下で土坑を1基検出した。土坑上面は近代の土坑に切られる。上坑は長方形を呈し、遺構検出面で南北に約76cm、東西に約116cm、深さ約72cmを測る。床面は隅丸の方形で、フラットである。出土遺物が1点もなく時期は不明である。覆土は溝状遺構のものと酷似する。

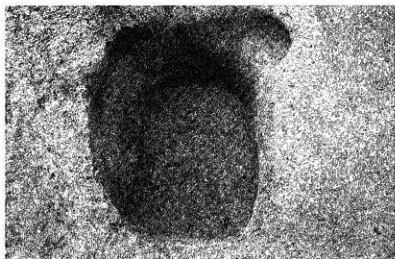
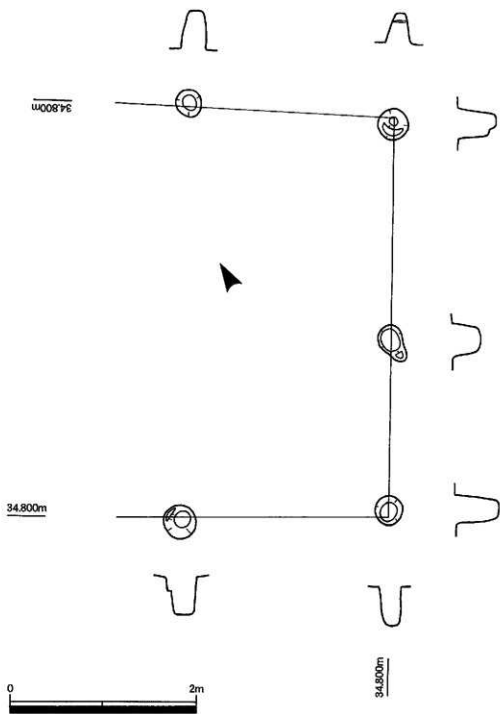


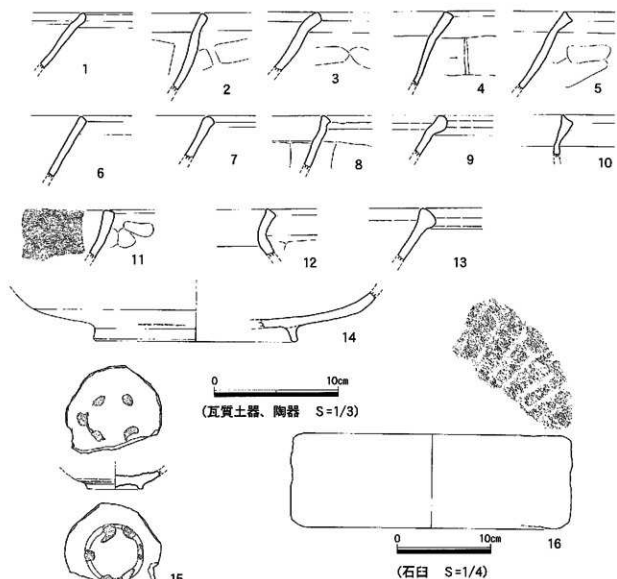
写真4 土坑



第6図 掘立柱建物図 (S-1/40)

### (3) 掘立柱建物

調査区の西側で掘立柱建物を1棟検出した。全形は不明である。南北方向に2間、420cmである。東西方向は調査区外に延びる。柱穴間は約220cmである。柱穴規模は最大で直径約36cm、深さ約44cmである。また柱穴2基から直径約20cmの河原石が複数検出された。柱穴からの出土遺物は1点もないが、建物の軸は溝状遺構と直行する。



第7図 黒水遺跡拜香地区出土遺物

#### 4. 遺物

図示した遺物はすべて溝状遺構から出土したものである。1から10は(註1)瓦質土器の鍋の口縁部である。1の口縁部は短く外反する。端部は丸く上方に短くのびる。2、3は短く外反し、端部は方形を呈す。内外面にケズリを施す。4も短く外反し、口縁端部は方形を呈する。5も短く外反し、端部はやや肥厚する。6の口縁部は直線的に上外方へのびる。7も直線のび、端部は肥厚する。8はやや内湾し、端部はわずかに肥厚する。9は「く」字に外反し、端部は肥厚する。10は(註2)防長系か。外面に煤が付着する。11は瓦質土器の播鉢である。口縁部はゆるく屈曲する。櫛目の間隔は広いものであろう。12は瓦質土器の鉢か。口縁部は「く」字に外反し、端部は肥厚する。13、14は瓦質土器の鉢である。13の端部は肥厚し、丸みをもつ。14は底部である。復元底径16.4cmを測る。15は(註3)朝鮮産の陶器の碗である。高台と見込みに胎土目が5ヶ所、確認される。底径4.5cmを測る。溝状遺構の底から検出された遺物で、16世紀末に比定される。16は石臼である。石材は安山岩。

註1、2は後藤一重氏に御教示いただいた。

註3は古田克氏、塩地潤一氏にご教示いただいた。

## 第4章 小 結

今回の調査区から検出された遺構は、溝状遺構1条、土坑1基、掘立柱建物1棟等であった。溝状遺構の底から検出された遺物は16世紀代のものが主体で、遺構はこの時期のものであろう。溝状遺構から検出された遺物で特筆されるのは、朝鮮産陶器の碗底部である。また今回、小片で図示されていないが(註4)大型器種の青磁片も出土している。掘立柱建物、土坑は出土遺物がなく時期の決め手にかけるが、前記した遺構覆土などから溝状遺構と同時期と判断した。今回の発掘調査は鉄塔建設に伴うもので、調査面積が狭く、遺跡の性格を判断できなかつた。しかし、周辺の地形や、法務局に残る明治21年の周辺の地目から遺跡の性格を推測してみる。第8図は明治21年の土地の地目を掲載したものである。調査区周辺で、細長い山林が直線や鍵の手状に見られ、土塁の存在が推測される。写真5は拜香宮のA地点を撮影したものである。拜香宮は方形に溝状のものに囲まれる。写真6は溝の

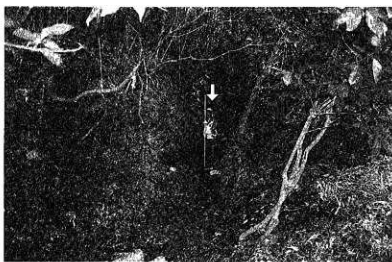
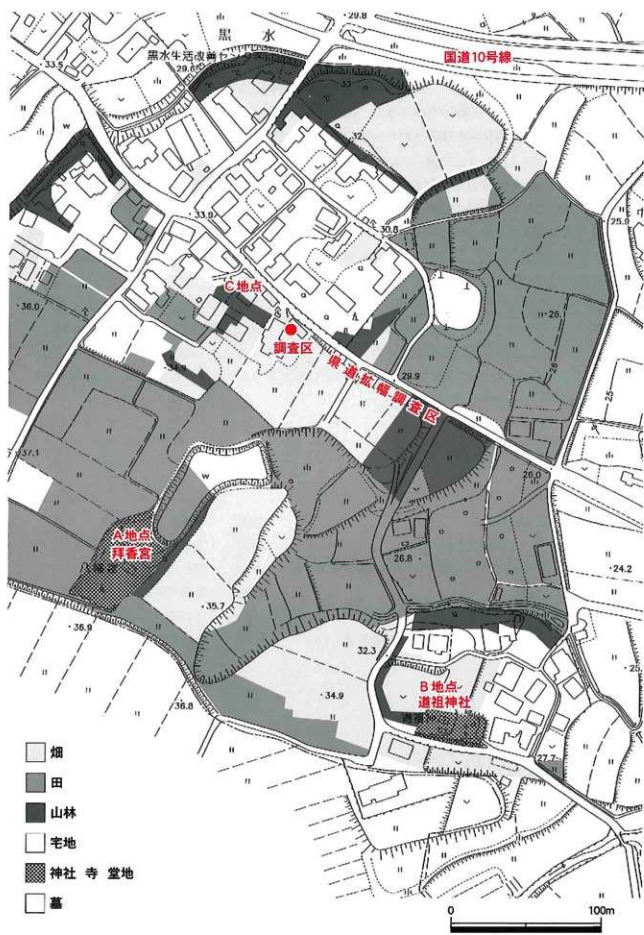


写真5 A地点 溝



写真6 A地点 土塁



第8図 黒水道跡拜香地区周辺明治21年地目図 (S=1/2,500)

東側にあたる地点である。土塁状の土盛が溝と平行に並ぶ。土盛の高さは最高で約1.6m、長さは約47m続く。これ以外にB地点の地目が注目される。土塁に囲まれる施設の存在が確認できる。土塁は近年の開発で消滅しているが、この地点は地元で通称『弁城』と称され、道祖神社が祀られる。また調査区の北側約250mに国道10号線が走り、国道新設時に大分県教育委員会により発掘調査が実施され、中世の有力者の居住区が確認されている。この付近では大幡城の存在が期待されたが、その確認には至らなかった。また今回の調査区の西側C地点で、土塁の存在が見られる。この土塁も現在消滅しているが、今回検出された溝状遺構と直行する。今回の調査終了後、調査区に隣接する県道で、道路拡幅工事にともなう発掘調査が大分県教育委員会により実施され、調査区より溝状遺構が検出されている。溝は県道に沿うように検出され、今回の調査区で検出された溝と直行し、北西、南東方向にのびることが確認された。台地上に方形の区画が存在したことが推測される。前記した調査区西側C地点の土塁はこの溝にともなうものであろう。

調査が行われた周辺は地元で『正源寺』また『しゅうげんじ』と称される。調査区に隣接する民家に聞き取りをしたところ、先代から使用された拵しやげんじがあり、この家の屋号『正』の字が刻み込まれているのが確認された。根拠に欠けるが出土遺物、周辺の状況、字名などから調査区で検出された遺構は、16世紀末の寺か居館の一角に位置付けられるものではなかろうか。県道拡幅調査が、今回の調査の未消化分を解明してくれるものであろう。

註4は堀地調一氏にご教示いただいた。

#### <参考文献>

『諸田遺跡岩丸地区』	2003	中津市教育委員会
『大分・大友土器研究会論集』	2001	大分・大友土器研究会
『宇佐道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』	1994	宇佐市教育委員会
『伐株山城跡』	1984	玖珠町教育委員会
『山口市埋蔵文化財年報4』	2003	山口市教育委員会
『中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅰ)』	1988	大分県教育委員会

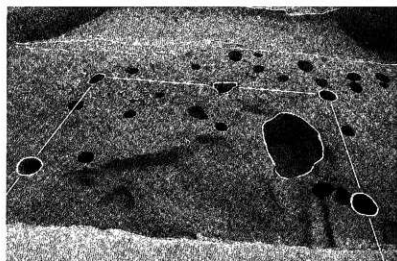
图版 1



溝遺物出土状況

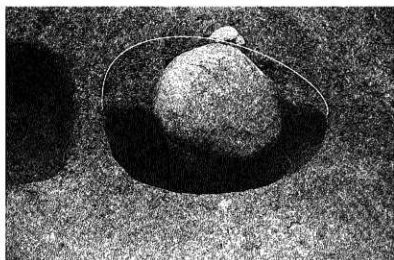


朝鮮産陶器出土状況

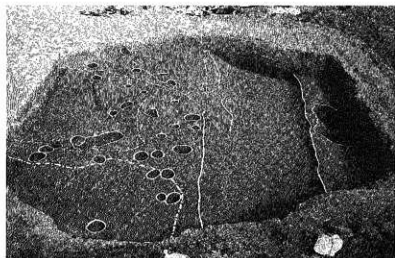


掘立柱建物

図版 2

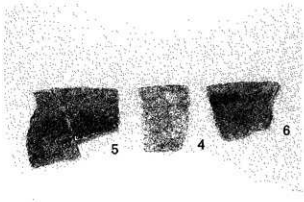
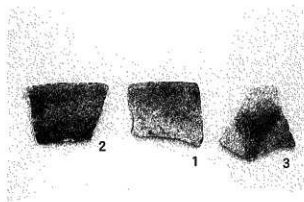


掘立柱建物柱穴



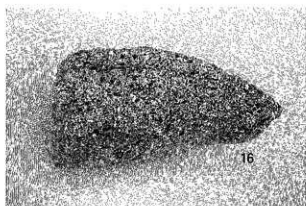
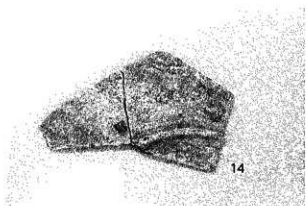
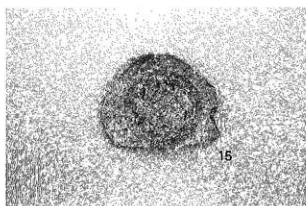
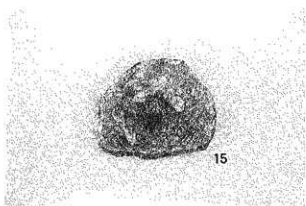
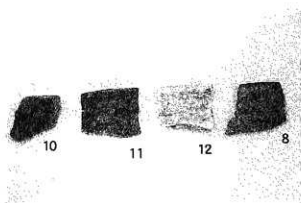
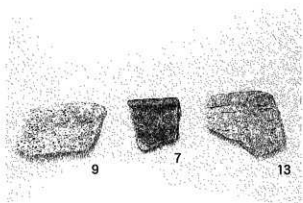
完掘状況

出土遺物





图版 3



# 報告書抄録

書名	くろみづ いせき ばいこう ちく 黒水遺跡 拜香地区							
副書名								
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第40集							
編著者名	花崎 徹							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	大分県中津市豊田町14-3							
発行年月日	2006年3月10日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
黒水遺跡 拜香地区	大分県中津市 大字加来 1792-1	44203	101071	33°	131°	051017	63㎡	無線基地 局建設
				32°	12°			
				51°	43°	051102		
所収遺跡名	種別	時代	遺構	遺物	特記事項			
黒水遺跡 拜香地区	中世居館？	中世	溝 掘立柱建物 十坑	瓦質土器 輸入陶磁器				

黒水遺跡拜香地区

中津市文化財調査報告 第40集

2006年3月10日

発行 中津市教育委員会  
印刷 藤川原田印刷社